

このコーナーは、町内で行われたイベントや活動、町民の皆さんの身近で起きたちょっとした出来事など、1カ月のまちの話題を紹介するページです。



ふるさとフェア村山で厚岸の味覚を販売

11月3日、山形県村山市で開催された『ふるさとフェア村山』に厚岸町からも参加し、水産物を中心に地元特産品の販売をしました。

ふるさとフェアは、農産物を格安で販売し、多くの人に農業への理解を深めてもらい、農産物の消費拡大につなげようと開催しているもので、町からも毎年参加して物産展を行っています。

当日はあいにくの雨模様でしたが、会場には多くの市民が訪れ、厚岸町のコーナーは行列ができるほどの盛況ぶりでした。今年も厚岸漁業協同組合から提供を受けたサンマと、鉦路太田農業協同組合から提供を受けた牛乳を、村山市民に無料配布を行いました。

翌日には佐藤清市長に表敬訪問したほか、最上徳内記念館やリンゴ園などの視察も行い、村山市民との交流も深めました。

日ごろの練習の成果を発表しました

11月23日、社会福祉センターで平成20年度厚岸町民文化祭芸能発表が

同実行委員会の主催で行われ、30団体約270人が出演し、日ごろの練習の成果を発表しました。



民謡や三味線、舞踊、器楽演奏、和太鼓、ダンス、クラシックバレエ、吹奏楽、町指定の無形文化財『厚岸かぐら』などが披露されました。出演者の一生懸命な発表に会場からは、大きな拍手や声援が送られ、時には大きな笑い声が会場をうめつくしました。

練習の成果を発揮中学生英語暗唱発表会

11月15日、厚岸町中学生英語暗唱発表会が真龍小学校で行われ、町内の7校から33人が参加しました。

この発表会は、日常の英語教育の成果を発表することを通して、英語によるコミュニケーション能力や国際社会への関心を育むことを目的としており、参加した生徒は、身ぶり手ぶりを交えながら、日ごろの練習の成果を発表しました。



こう福祉21で福祉の理解を深める

11月9日、社会福祉センターにおいて『厚岸町障害者（児）ふれあいフ

エステイバルこう福祉21』が開催されました。



このフェスティバルは、障がい者や高齢者、健常者が共に支えあう社会の実現を目指して同実行委員会が主催しているもので、タイトルの『こう福祉』の『こう』には『考、幸、高』など、福祉への思いが込められています。今年で9回目となるフェスティバルには、昨年を上回る27の福祉団体や学校などが参加し、ポスターセッションや壇上での発表を行い、日ごろの自分たちの活動を発表しました。

地球温暖化の影響を学ぶ厚岸シンポジウム

11月22日、厚岸情報館を会場に厚岸シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、道民カレッジ『ほっかいどう学』出前講座、北大厚岸臨海実験所環境問題公開講座として開催され、町内外から約50人が参加しました。

基調講演では、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター苫小牧研究林の日浦教授が『温暖化と森林』をテーマに講演し、身近な森林や自然の変化を正確に記録し対策を考える重要性を説明しました。

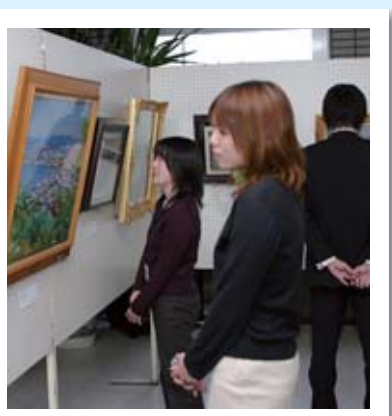
また提言発表では、北海道教育大学釧路校の神田教授が、国際的な環境教育の変化と釧路校での取り組みを紹介しました。

パネルディスカッションでは、厚岸臨海実験所の仲岡所長が進行役を務め、水鳥観察館の澁谷専門員も交えながら、それぞれの分野から意見を交わしました。

役場で絵画を鑑賞小さな美術館開催

11月17日から28日まで、役場庁舎で『霞陽は小さな美術館』が開催され、多くの町民が訪れました。

この絵画展は、庁舎の廊下や会議室に展示してある作品の内、厚岸町の風景を画いた作品を中心に、見やすいように移動展示したものです。訪れた人たちは、画かれた昔懐かしい厚岸の風景に見入っていました。



ボランティアの集いで交流を深めました

10月26日、厚岸町ボランティア連絡協議会（堤美津子会長）主催の『ボランティアのつどい「ななかま」』とフリーマーケットが、社会福祉センターで開催されました。

町内のボランティア団体や障害者サークルなど10団体が出店し、衣類や食器類などのほか、手作りの手芸品などが販売され、昔懐かしい駄菓子コーナーや、お手玉、おはじきなどの伝承遊びのコーナーも特設されました。

来場者は思い思いに品定めをし、『ジャンボあみだくじ』では、景品が当たるたびに大きな歓声が上がりました。

なお今回の収益金の一部は、厚岸町社会福祉協議会や厚岸町赤い羽根共同募金会へ寄付されます。

